

# 顔

三年 画数 18  
筆順 ム 产 彦 顔 顔  
オン ガン  
フン かお

成り立ち



「あたま」のかたちをあらわし、「あたま」のいみにかう「眞」と、「りっぱな人」のいみの「彦」とを組み合わせて作った字です。

「あたま」の中で、いちばん目だつてりっぱなところの「かお」をあらわしたものです。

〔彦は、「文」と「尸」（呉音はガン）と「彡」との会意・形声字である。尸は音を表し、「文」と「彩」の意味の「彡」とで、「美しい模様（文）と色彩（彡）」を表したものである。わが国では「ひこ」と読まれて、男子の美称に用いられる。「ひこ」は「ひめ」に対する言葉で、「日子」の意味である。〕

使い方

▽あのひとは、いくつになつても童顔だね。  
▽ぼくは、朝、顔をあらうのがきらいです。めんどうくさいし、冬は水がつめたいし、なぜ顔をあらわなければいけないのか、わかりません。でも、おかあさんは、顔をあらわないとふけつだから、あらいなさい、といひます。

▽わたしのおとうとは、顔をあらうのがきらいです。わたしは、顔をあらうと、さっぱりするし、目がはっきりさめるので、顔をあらうのは、いいことだとおもひます。おとうとは、めんどうくさがりなのです。

熟語例

▽童顔（子供っぽい顔。「童」というのは子供のことです。）

▽温顔（温かみのある、おだやかでやさしい顔つき）

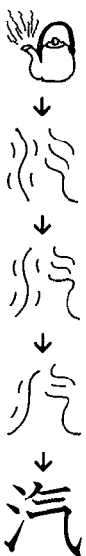
▽破顔（にっこりと、笑うこと。「破顔一笑」などといひます。）

▽厚顔（あつかましいこと。つらのかわが厚い、といひみです。ずうずうしいこと。「あんなことをいうなんて、厚顔もいいところだ」など）

# 汽

二年 画数 7  
筆順 キ シ 汽  
フン オン キ

成り立ち



蒸気が立ち上がっているようすをあらわした「汽」と、「シ」とを組み合わせてつくった字です。

「水蒸気」のことをあらわした字です。「湯気」ともいひます。

「汽船」は、「水蒸気」の力をつかつてはしる船のことですが、いまは「水蒸気」の力をつかわなくなりましたが、やはり「汽船」といひています。

使い方

▽むかしは、とおくのまちにいくには、みな汽車に行つたものです。

▽とちゆうで日がくれて、正一は夜汽車の中でねむりこんでしまいました。

熟語例

▽汽車（蒸気のでうごき、レールの上をはしる車。たくさんのおきやくや、にもつをのせてはしります。）

▽夜汽車（夜中にはしっている汽車。むかしは、汽車のそくりよくがおそかったので、とおいところに行くには夜汽車ののつていかなければなりません。今では「夜行列車」またはブルートレインといひます。）

▽汽船（蒸気のでうごき船。いまは、ほんとうに蒸気のでうごき船といひはすくなくなりました。でも、むかしからのしゆうかんで、船のことを「汽船」とよんでいひます。）

▽汽笛（蒸気がまの蒸気をふきださせて、ならす笛。汽車や汽船などが、しゅつぱつするときや、はしつているときに、ならします。）